

一般財団法人 千里文化財団  
2019年度事業計画及び収支予算書  
(2019年4月1日～2020年3月31日)

2019年3月

一般財団法人 千里文化財団

## 2019年度事業計画書（2019年4月1日～2020年3月31日）

当財団の目的は、「民族学・文化人類学等の振興を図るため、国立民族学博物館等関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、社会の発展に寄与する。」と定められ、その目的を達成するための各種事業を推進し、また文化振興や次世代育成等含め、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

### 1.民族学・文化人類学等普及事業

一般市民を対象に、民族学・文化人類学の普及のため、国内唯一の民族学・文化人類学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施する。

- 1) 国立民族学博物館収蔵資料「梅棹忠夫アーカイブズ」の整理及びデータの整備への協力  
膨大な梅棹忠夫アーカイブズ資料を整理し、総合的に関連付けた基礎データの作成、及び活用に向けた支援
- 2) 民族学・文化人類学の研究促進・普及を目的とした図書の企画・編集・発行  
家庭学術雑誌『季刊民族学』4号（168号～171号）の編集、発行及び集広  
別紙1：2019年度『季刊民族学』企画内容（案）
- 3) 国立民族学博物館、及び民族学・文化人類学の普及を目的とした各種講演会及びセミナー等の企画・運営  
別紙2：2019年度講演会等企画内容（案）

### 2.国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用の促進を目的として、一般市民を対象に、各種協力事業を実施することにより利用者の便宜を図る。

- 1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作事業
- 2) 国立民族学博物館の展示理解向上のための教材頒布、及び広報普及事業としてのミュージアム・ショップの運営事業  
別紙3：2019年度ミュージアム・ショップ事業計画（案）
  - ① 国立民族学博物館 本館展示の『展示案内』、特別展及び企画展の解説書、  
『月刊みんぱく』、『研究報告』、『民博通信』等国立民族学博物館の刊行物の頒布
  - ② 国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布
  - ③ 国立民族学博物館オリジナルグッズの開発・販売  
展示品のレプリカ、カレンダー、ポストカード、Tシャツ、クッキー、スタンプ、  
クリアファイル、トートバッグ、ステッカー、鉛筆、ノートブック、レターセット等

④ 現地産民族資料及び民族学・文化人類学関連図書の頒布

3) 国立民族学博物館の普及事業

① 「国立民族学博物館友の会」の運営、及び会員の増強

国立民族学博物館並びに民族学・文化人類学の普及を目的とし、千里文化財団が国立民族学博物館と市民のあいだのかけはしとなる友の会を設け、博物館の活動を支援するとともに、市民の博物館活用を促す。

2019年度の取り組み

2018年度は、友の会制度を改定し「博物館活動を支援する会員」「博物館を活用する会員」の位置づけを明確にするとともに、多様なニーズに対応するために新会員種別を設けサービスを拡充したが、震災による臨時休館等で会員数が伸びなかった。2019年度は、改めて会員種別毎に広報内容と対象を絞り会員増強を目指す。

→ 春及び秋の入会キャンペーンの実施

→ 催し（サービス）の充実：東京での講演会、他の文化施設等との連携事業 他

→ 友の会カウンターの整備：館内の情報発信拠点として、掲示物の見直し、入会者へのヒヤリング等を実施する。

② 「国立民族学博物館友の会ニュース」の制作・発行（年6回発行）

③ 国立民族学博物館キャンパスメンバーズの運営

④ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』の編集協力・制作及び編集事務（受託事業）

⑤ 国立民族学博物館オリジナルカレンダーの制作及び頒布

4) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業

① 展示案内学習支援等業務を受託し実施（受託事業）

展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、看視業務をおこない、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務

② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施（受託事業）

標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうとともに、情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・管理等業務

③ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施（受託事業）

国立民族学博物館の民族学資料（標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・音響資料及び研究アーカイブズ資料）について館内外からの問い合わせに対応する窓口業務

④ 関連催し物の開催支援及び運営事業（受託事業）

5) 国立民族学博物館活動に協力する事業

国立民族学博物館 特別展「子ども／おもちゃの博覧会」（3月21日～5月28日）、「驚異と怪異—想像界の生きものたち」（8月29日～11月26日）、及び企画展等各種催しに対する協力として広報活動をおこなう。

### 3.博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援する。

#### 1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査研究

- ① 出前授業プログラム開発及び普及
- ② 各地の博物館等を活用する巡回展や展覧会：

タイトル：国立民族学博物館コレクション「世界の衣装」展（仮）別紙4参照

開催期間：11月13日（水）～11月25日（月）

会場：阪急うめだ本店9階「阪急うめだギャラリー」

#### 2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究

- ① 指定管理者制度における博物館運営に関する調査研究
- ② 巡回展のための什器に関する調査
- ③ 博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査研究

#### 3) 各地の博物館展示案内等の編集業務

『広島県立歴史博物館 展示案内』（日本生命財団より受託。2020年2月完成予定）

### 4.地域活性化・文化振興協力事業

多様な文化の振興をめざし、各種文化活動に協力する。

#### 1) 「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する委員会運営業務（松下幸之助記念財団より受託）

第28回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託し実施する。

「松下幸之助花の万博記念賞」：花の万博の基本理念「自然と人間の共生」の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰している。

#### 2) 日本展示学会の事務業務

「日本展示学会」の事務局業務を受託し実施する。

「日本展示学会」：展示に関する研究を、技術論だけでなく、社会的・文化的な観点からもひろく研究することを目的とした学会。

1982年に、国立民族学博物館において設立された。

#### 3) 同人雑誌『千里眼』の編集・発行

『千里眼』：千里地域に居住あるいは仕事場をもつ知識人による同人雑誌。

第146号～第149号の4号の編集を受託し発行する。

#### 4) 長野県との「信州の山岳文化創生事業」の推進に関する包括連携協定に基づく協力

2019年度「国立民族学博物館友の会」機関誌『季刊民族学』企画内容（案）

**168号（4月25日発行予定）**

① 特集「暦をめぐる、世界をめぐる（仮）」:

執筆者）中牧弘允（民博名誉教授）、八杉佳穂（民博名誉教授）、藤井龍彦（民博名誉教授）、新免光比呂（民博准教授）、庄司博史（民博名誉教授）、鈴木英明（民博助教）、三尾稔（民博教授）、櫻永真佐夫（民博教授）、松川節（大谷大学教授）、杉本良男（民博名誉教授）、渡邊欣雄（東京都立大学名誉教授）、笹原亮二（民博教授）

② 2018年・夏 雲南調査日記（仮） 中生勝美（桜美林大学教授）

③ 連載 生活必需品から文化と近代化を考える [8] :

中谷純江（鹿児島大学総合科学域総合教育学系教授）「インドの生活用品（仮）」

④ 本棚：大澤由実（国立民族学博物館機関研究員）

石毛直道著『レシピで味わう世界の食文化—みんなく研究室でクッキング』他

**169号（7月25日発行予定）**

① 特集「海の考古学—篠遠喜彦の足跡から（仮）」:

執筆者）メラニー・イデ（ビショップ博物館館長）、エリック・コモリ（ビショップ博物館研究員）、須藤健一（民博名誉教授）、後藤明（南山大学教授）、片山一道（京都大学名誉教授）、秋道智彌（山梨県富士山世界遺産センター所長）、林徹（国際基督教大学講師）、領塚正浩（市川市立考古博物館学芸員）、飯田裕子（写真家）、海部陽介（国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長）、石村智（東京文化財研究所無形文化遺産部音声映像記録研究室長）

② クスコ—聖母の祭りママチャ・アスンタ（仮） 藤井希伊（クスコ在住ガイド・写真家）

③ 連載 生活必需品から文化と近代化を考える [9] : 中谷文美（岡山大学教授）

④ その他

**170号（10月25日発行予定） ※10号毎の索引**

① 特集：「小泉八雲（仮）」

② 連載 生活必需品から文化と近代化を考える [10] :

③ その他

**171号（2020年1月25日発行予定）**

① 特集：「梅棹忠夫生誕100年（仮）」

② 連載 生活必需品から文化と近代化を考える [11] :

③ その他

## 2019 年度「国立民族学博物館友の会」講演会等企画内容 (案)

## 1) 国立民族学博物館友の会講演会

【会場：国立民族学博物館】通算回数（開催日）：「演題」 / 講師(所属)

開催日時：毎月第 1 土曜日、13：30～15：30（見学会もしくは懇談会等を含む）

- 第 487 回 4 月 6 日（土）[企画展「旅する楽器—南アジア、弦の響き」関連]  
「イラン音楽の楽しみ—伝統打弦楽器サントールを例に」  
谷正人（神戸大学大学院准教授）
- 第 488 回 5 月 4 日（土・祝）[特別展「子ども／おもちゃの博覧会」関連]  
「紙人形と着せ替え遊び—遊ぶ身体の記憶」  
森下みさ子（白百合女子大学教授）
- 第 489 回 6 月 1 日（土）  
「『陽気な墓』を通して考える生と死」新免光比呂（民博准教授）
- 第 490 回 7 月 6 日（土）[企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの 50 年—『みられる私』より『みる私』」関連]「サウジ女性のいま・むかし（仮）」  
企画展実行委員
- 第 491 回 8 月 3 日（土）[みんぱく名誉教授シリーズ]  
「ガンディー（仮）」杉本良男（民博名誉教授）
- 第 492 回 9 月 7 日（土）  
「山岳観光とシェルパ族（仮）」古川不可知（民博機関研究員）
- 第 493 回 10 月 12 日（土）[特別展「驚異と怪異—想像界の生きものたち」関連]  
※登壇者等調整中。催しの都合、第 2 土曜日に開催日を変更予定。
- 第 494 回 11 月 2 日（土）  
「インド洋海域の世界史（仮）」鈴木英明（民博助教）
- 第 495 回 12 月 7 日（土）[みんぱく名誉教授シリーズ]  
「金比羅さんと鯨（しゃちほこ）のルーツ（仮）」立川武蔵（民博名誉教授）
- 第 496 回 2020 年 1 月 11 日（土） [朝枝敏夫氏コレクション展示関連]  
「※話題調整中」丹羽典生（民博准教授）
- 第 497 回 2020 年 2 月 1 日（土）※未定
- 第 498 回 2020 年 3 月 7 日（土）  
「※話題調整中」林勲男（民博教授）

【会場：東京他】通算回数（開催日）：講師(所属) / 「演題」

開催日時：不定期、13：30～15：30（懇談会等を含む）

第 126 回 7～9 月頃

第 127 回 1 月 25 日（土）吉岡乾（民博助教）「消滅危機言語（仮）」

第 128 回 3 月頃 ※未定

## 2) 国立民族学博物館友の会みんぱく見学会

開催日時：土曜日 14:50～15:30、国立民族学博物館展示場で開催

通算回数（開催日）：「展示名」 / 講師(所属)

第 74 回（4 月 6 日）企画展「旅する楽器—南アジア、弦の響き」

谷正人（神戸大学大学院准教授）

第 75 回（5 月 4 日）特別展「子ども／おもちゃの博覧会」

森下みさ子（白百合女子大学教授）

第 76 回（7 月 6 日）企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの 50 年 —

『みられる私』より『みる私』」 縄田浩志（民博特別客員教授）

第 77 回（10 月 12 日）特別展「驚異と怪異—想像界の生きものたち」

山中 由里子（民博准教授） 予定

第 78 回（2020 年 1 月 11 日）朝枝敏夫氏コレクション展示

丹羽典生（民博准教授）

## 3) 国立民族学博物館友の会体験セミナー

通算回数（開催日）： 講師(所属) / 訪問先 / 「演題」 / 内容

① 第 81 回（5 月 11 日（土）～5 月 12 日（日）：2 日間）

「琵琶湖と生きる—刺し網漁とモンドリ漁」

協力：滋賀県立琵琶湖博物館 訪問先：滋賀県草津市、高島市

日本最大の湖、琵琶湖には内湖など琵琶湖特有の多様な環境があり、その環境に適応した多くの固有種が生息している。そのため、古くから湖岸域で環境や魚介類の習性に合わせた独特の漁法が生み出されてきた。また 2018 年には琵琶湖漁具が登録有形民俗文化財に指定され、琵琶湖の漁業の貴重さが再評価されている。本セミナーでは講義、漁業体験、郷土料理の実食を通して、琵琶湖とともに生きるために培ってきた生活の知恵や技術について学び、滋賀県で古くから親しまれてきた湖魚料理の良さやおいしさに触れてもらう。またプログラムを通して、これからの琵琶湖の漁業の継承について考える機会としたい。

② 第 82 回（10 月 13 日（日）～10 月 14 日（月・祝）：2 日間）

「もののけ街道をゆく—稲生物怪録と小泉八雲を訪ねる（仮）」

同行講師：山中 由里子（民博准教授）

現地講師：植田千佳穂、小泉凡など

訪問先：広島県（三次市）、島根県（松江市）

2019 年度秋季特別展「驚異と怪異」に関連して実施。2019 年 4 月にオープンし、民博特別展にも複数の資料提供をしている三次もののけミュージアム（仮／広島県）の協力のもと、新設のミュージアムの展示見学に加え、三次を舞台とする妖怪譚「稲生物怪録」の関連スポットを巡る。1 日目は三次に滞在、2 日目はたたら遺産が点在する奥出雲を抜けて島根県松江市に移動し小泉八雲のゆかりのスポットを巡る。

③ 第 83 回（2020 年 1～2 月頃）企画中

#### 4) 国立民族学博物館友の会民族学研修の旅

① 第 93 回 (6 月 7 日 (金) ~18 日 (火) : 12 日間)

「インドネシア東部、ヌサトゥンガラ諸島の住まいを訪ねる」

同行講師：佐藤浩司 (民博准教授)

訪問地：インドネシア

インドネシアでは島ごと民族ごとに異なる個性豊かな木造家屋が生み出されてきた。家屋や集落は、配置や包囲、装飾やシンボリックな形状に人びとの価値観を知ることができ、多様な造形は人類学的にも研究対象にされる例が多い。西部の集落を訪ねた 2018 年度に続いて、東ヌサトゥンガラ州に属する 3 つの島を訪ねる。地域間の比較を試みるとともに、民博の映像取材地 (スンバ島) を旅程に加え、研究成果を還元することを目指す。

② 第 94 回 (11 月中旬~12 月初旬) ※調整中

「ベトナム・ラオス北部、少数民族を訪ねる (仮)」

同行講師：樫永真佐夫 (民博教授)

訪問先：ベトナム、ラオス

ベトナム、ラオスにおけるタイ系民族の居住地域を訪ねる。平野、盆地、山間部を訪ねて住み分けて生活を営む少数民族の暮らしを比較する。また同じくフランス植民地、社会主義時代を経験した国でありながら、食文化や宗教観が異なるので、歴史的経緯を踏まえた国 (都市部) としての個性も比較する機会としたい。

#### 5) 国立民族学博物館友の会午餐会 ※国立民族学博物館維持会員対象

第 204 回：7 月 26 日 (金) 「文化政策 (仮)」 蓑 豊 (兵庫県立美術館館長)

第 205 回：10 月予定 「食文化 (仮)」 熊倉功夫 (民博名誉教授)

#### 6) 外部広報事業

■国立民族学博物館・国立科学博物館 共同企画展

「ビーズ—自然をつなぐ、世界をつなぐ」 関連講演会

タイトル：「ヒトってなんだ??ホモ・サピエンスの誕生から文化の獲得まで」

講師：篠田謙一 (国立科学博物館)、池谷和信 (国立民族学博物館)

□日時：5 月 25 日 (土) 14:00~16:00

□会場：国立科学博物館 講堂

□主催：千里文化財団、国立科学博物館

民博のビーズ資料を展示する国立科学博物館の企画展に関連し、講演会を実施する。特別展に続く各地の展覧会ではビーズを一例に人類の文化的営みの普遍性と相違、その拡がりを紹介してきたが、一連の機会をとおして抱いたのが「(ビーズを生み出した) ヒトらしさとは何か」という興味であった。科博を会場に、文化人類学と自然人類学の研究者の知見を交えることで、文化的な営みを、生物的な特徴として獲得したヒト (ホモ・サピエンス) そのものを探究する機会を創出したい。また、科博企画展開催期間中に実施することで、双方の研究分野、博物館活動への関心、友の会の相互割引提携の周知を目指す。



■うめだホール 阪急生活楽校

大阪の表玄関、梅田に位置している阪急百貨店うめだ本店に設けられた、うめだホールと併設されているうめだギャラリーは、新しい生活文化の発信基地として、講演会や展示会等さまざまな目的で活用されている。2019年度も引き続き、国立民族学博物館の広報を目的とし、うめだホールを会場に、文化人類学の知見を生かした親しみやすいテーマの講演会を実施する。

話題：半期に1回開催（以下、案）

① 夏頃

- ・アラビアンナイトとコーヒー 講師候補：西尾哲夫  
発祥の地アラブのコーヒー文化を中心に、嗜好品としての変遷、飲用に至る歴史的経緯を紹介する。また民博の企画展と関連付けし、展覧会の周知を目指す。

② 秋～冬頃（以下いずれかの企画）

- ・阪急うめだギャラリーで開催の「かわいい民族衣装」で紹介する  
地域のなかで、百貨店顧客層に関心の高いテーマを提供。  
展覧会と緩やかに関連付けし、展覧会から派生する興味を喚起する  
講師候補：新免光比呂、榎永真佐夫
- ・バレンタイン開催時期に中南米のチョコレート文化に関する話題を提供。  
講師候補：八杉佳穂、鈴木紀
- ・女性に関心の強い話題（出産、育児、結婚、人生儀礼等）を提供。  
講師候補：松尾瑞穂、藤本透子、三尾稔、南真木人

開催場所：うめだ阪急ホール（阪急百貨店9階）

主催：千里文化財団、阪急ライフスタイル研究所

特別協力：国立民族学博物館

## 2019年度 ミュージアム・ショップ 事業計画 (案)

**現状の問題点**

1. 2018年度は被災による休館にともなう長期(約2ヶ月)の休店のため、例年どおりの売上を達成できていない。
2. 2019年度は5年毎のPOSシステムのリース期間終了による入換え(リプレイス)検討時期にあたっている。
3. 2019年秋に、消費税率の変更にもなつて軽減税率が導入された場合、POSシステムもそれに対応する必要がある。
4. 現行POSの基幹OSのサポートも2020年1月で終了する。

**経費節減と売上増による増益対応策**

1. 財務的に落ち着くまで、POSシステムのリプレイスを遅らせるかどうかを、法制度の変更等を鑑みながら、検討する(状況により、年度内でのリプレイスの可能性もあり)。
2. ワークフローの点検と検討・修正
  - 1) POSシステムの必要機能の精査
  - 2) 公益財団法人化にむけた持続可能な収益分岐点の見直しと省力化
  - 3) 図録等、在庫管理の見直しと整理(移動・廃棄を含む)
  - 4) ショップバッグ(包装袋)の検討
3. 在庫商品の販売強化
  - 1) 図録コーナーの見直し
  - 2) 旧オリジナルグッズの割引やセット販売
  - 3) 館研究者の著作コーナーの見直し

**国立民族学博物館の展示・催事と連動したショップの商品展開**

1. 特別展「子ども/おもちゃ博覧会」でのショップ展開：
  - 1) 特別展の展示資料写真などを使用したグッズの作成：書類ファイル、パン缶
  - 2) 特別展に関連したイラストを使用したグッズの作成：トレーナー、エコバッグ
  - 3) 展示関連のガチャガチャの導入
  - 4) 展示に関連したキャラクターグッズの販売
2. 本館展示に関連したオリジナル商品の開発拡充：
  - 1) 新たな商品アイテムによるオリジナル商品の開発
  - 2) 仮面モチーフの新たな商品の開発：仮面グッズのカテゴリーのマスとしての充実
  - 3) 仮面以外の新たなモチーフを探し、新たな商品群の開発 ex.衣装など
  - 4) 文房具をベースにしたオリジナルグッズの開発
  - 5) 本館展示のオリジナルのエコバッグ(買い物バッグ)の制作
  - 6) 本館展示のオリジナルパン缶の制作
3. 特別展「驚異と怪異—想像界の生きものたち」でのショップ展開：
  - 1) 特別展の広報につながるグッズの作成：クリアファイル、Tシャツなど
  - 2) 特別展関連グッズの販売：キーワード「妖怪」「能・狂言」「FINAL FANTASY」

## 国立民族学博物館コレクション「世界の衣装」展 開催概要（案）

1. 名 称 国立民族学博物館コレクション「世界の衣装」（仮）

2. 概 要

国立民族学博物館が収蔵している未公開の衣装資料を中心に利用して、阪急うめだ本店「阪急うめだギャラリー」にて公開する事業。この展覧会により、それらの衣装をうみだす手工芸技術や生産者・着用者の社会や文化に親しんでいただく機会を設けるとともに、日本で唯一の民族学・文化人類学の研究機関である国立民族学博物館の研究、資料収集、展示企画を、より多くの人びとに発信する機会とする。

現在、世界の衣装は画一化に進んでおり、地域・民族特有の衣装が減少にむかっている。この要因は、世界中で急速な工業製品の流入やグローバル化によって手工芸文化をとりまく動態が急激に様相を変えているからである。本展は、国立民族学博物館所蔵の1970年代から現代までの手仕事による衣装に焦点をあて、製作を支える染め・織り・刺繍などの手工芸技術と、それらをうみだす社会・文化を通文化的に一般に広く紹介し、手工芸文化のあり方について考えることを目的とする。世界の衣装は、気候や風土、社会や生活のなかで育まれるため、一枚布によるものから複雑に縫製されたものまで、その形態は多様であり、もちいられる素材や製作技術は多岐にわたる。世界各地の衣装に関する研究は蓄積されてきたが、衣装に関する通文化的研究は少なく、そのため、国立民族学博物館収蔵資料を活用して、展示によって世界各地の衣装の社会・文化的背景と製作技術、意匠を通文化的に紹介することは非常に意義深い。

3. 主 催 阪急うめだ本店、国立民族学博物館、千里文化財団 ※調整中

4. 開催期間 11月13日（水）～11月25日（月） 13日間

5. 開館時間 日～木 10:00～20:00 金・土 10:00～21:00

6. 会 場 阪急うめだ本店 9F 阪急うめだギャラリー（561㎡）  
〈〒530-8350 大阪府大阪市北区角田町 8-7〉

7. 展示点数 標本資料 約100点・映像資料 約10点

8. 企 画 国立民族学博物館

9. 観 覧 料 未定

10. 関連事業 未定

11. 広 報 未定

12. その他 民博紹介コーナーや民博関連の書籍販売コーナーを設置予定

## 2019年度収支予算書（正味財産増減計算ベース）

（2019年4月1日～2020年3月31日）

（単位：円）

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	3,000	3,000	0
基本財産受取利息	3,000	3,000	0
受取会費	39,250,000	41,300,000	△ 2,050,000
維持会員	12,700,000	13,500,000	△ 800,000
正会員	22,000,000	23,000,000	△ 1,000,000
家族会員	100,000	200,000	△ 100,000
キャンパスメンバーズ*	2,800,000	2,500,000	300,000
ミュージアム会員	1,200,000	1,500,000	△ 300,000
フリーパス会員	450,000	600,000	△ 150,000
事業収益	249,746,000	247,696,000	2,050,000
事業収益	57,000,000	56,046,000	954,000
受託事業収益	191,746,000	190,650,000	1,096,000
広告収益	1,000,000	1,000,000	0
受取補助金等	1,000,000	1,000,000	0
受取助成金	1,000,000	1,000,000	0
雑収益	1,000	1,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	290,000,000	290,000,000	0
(2) 経常費用			
事業費	259,080,000	259,440,000	△ 360,000
給料手当	123,000,000	123,000,000	0
臨時雇賃金	21,500,000	20,000,000	1,500,000
退職手当	5,000,000	5,000,000	0
法定福利費	21,800,000	21,800,000	0
福利厚生費	600,000	400,000	200,000
旅費交通費	3,850,000	5,550,000	△ 1,700,000
通信運搬費	5,000,000	5,300,000	△ 300,000
減価償却費	180,000	100,000	80,000
事務委託料	500,000	500,000	0
印刷製本費	11,000,000	12,000,000	△ 1,000,000
諸謝金	1,800,000	2,200,000	△ 400,000
会議費	1,000,000	1,000,000	0
光熱水費	500,000	500,000	0

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
消耗品費	2,500,000	790,000	1,710,000
負担金	15,000,000	13,500,000	1,500,000
原稿写真委託報酬	4,000,000	6,000,000	△ 2,000,000
支払手数料	700,000	700,000	0
賃借料	2,550,000	2,350,000	200,000
修繕費	100,000	100,000	0
著作権等使用料	50,000	100,000	△ 50,000
教材等制作購入費	35,900,000	36,400,000	△ 500,000
教材出版物等棚卸差額	2,300,000	1,900,000	400,000
館内サービス関係費	250,000	250,000	0
<b>管理費</b>	<b>26,990,000</b>	<b>27,300,000</b>	<b>△ 310,000</b>
給料手当	14,100,000	14,100,000	0
臨時雇賃金	100,000	100,000	0
退職手当	2,000,000	2,000,000	0
法定福利費	2,200,000	2,200,000	0
福利厚生費	100,000	100,000	0
旅費交通費	150,000	200,000	△ 50,000
通信運搬費	670,000	650,000	20,000
減価償却費	30,000	130,000	△ 100,000
印刷製本費	160,000	150,000	10,000
諸謝金	3,400,000	3,300,000	100,000
会議費	100,000	200,000	△ 100,000
光熱水費	100,000	100,000	0
消耗品費	660,000	650,000	10,000
負担金	300,000	250,000	50,000
原稿写真委託報酬	300,000	300,000	0
支払手数料	120,000	220,000	△ 100,000
賃借料	2,400,000	2,400,000	0
修繕費	100,000	250,000	△ 150,000
<b>経常費用計</b>	<b>286,070,000</b>	<b>286,740,000</b>	<b>△ 670,000</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>3,930,000</b>	<b>3,260,000</b>	<b>670,000</b>
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,930,000	3,260,000	670,000
一般正味財産期首残高	21,545,796	18,285,796	3,260,000
一般正味財産期末残高	25,475,796	21,545,796	3,930,000
Ⅱ 正味財産期末残高	25,475,796	21,545,796	3,930,000